

2022.05.21 シニアクラブ Online 会合報告

2月24日に始まったロシアのウクライナ侵攻はもう3カ月になります。ウクライナは攻められ、また別のところでは反撃で押し返すと、当初の予想を翻して長期戦の様相を呈してきています。



この侵攻をきっかけに「国歌」を調べてみることにりましたが、今回はその2として開催。前回の参加者が少なかったため、今回もウクライナ国歌から始めました。今回の参加者は12人。

ヨーロッパ大陸では長い歴史の中で人々の移動があり、各地において人種・宗教など様々な理由で融和や対立が起こり、国の栄枯盛衰・国境線の移動が繰り返されてきました。

現在ロシアの侵攻が進むウクライナ東部から南部一帯は「ノヴォロシア」と呼ばれ、18世紀末にロシア帝国が征服した黒海北岸部地域を示す歴史的な地域名で、今回のロシアの侵攻はあたかもそこを取り戻すかのごとき戦いをしているように見えます。

第2次世界大戦後、国際的に武力による国境線の変更は認められないことになっているはずですが「この戦いは19世紀かよ！」です。

- 2014年、親ロシア派が独立宣言をした複数の自称国家で構成される「ノヴォロシア人民共和国連邦」の国歌はソ連時代そのものです。
- 19世紀、オーストリア帝国国歌「神よ、皇帝フランツを守りたまえ」では、皇帝フランツをべた褒めし皇帝の下で国歌は栄えると歌い、
- 20世紀に続くオーストリア＝ハンガリー帝国国歌では「ハプスブルグ家」によって国が保たれると歌っています。まさに歴史ですね。
- 木村さんから英国国歌のリクエストがありました。ドイツ帝国に国歌が無く、英国を参照して国歌をつくったとのことで調べてみました。

英国国歌は1745年に採用(現在も法的に制定はされていない)され、ドイツ帝国(1871-1918)が非公式ながら国歌として同じメロディーを使用、とのこと。
このメロディーは作者不明だが、ほかでも幅広く利用されているようで、現在のノルウェー国歌も同じメロディーであるということを知りました。

• 今回も浅見さんには歌のリクエストをしてギターを携えての熱演を披露してもらいました。シューベルト作曲の「野ばら」とウェルナー作曲の「野ばら」他、ロシア民謡、ベトナム戦争時代の反戦歌等が紹介されました。

この熱演を宮田さんが動画編集してyoutubeにアップしたところ、今回歌った一部の歌に著作権の問題があることなどの指摘を受け、今回はyoutubeによる実演の紹介は断念することになりました。



シューベルトの「野ばら」とウェルナーの「野バラ」は歌詞が同じではあるが、4拍子、3拍子とメロディーに違いがあり、それぞれ好みがあると思います。皆様はどちらがお好みでしょうか。

またみんなで話し合いましょう。皆様のご参加をお待ちしています。

次回 令和4年(2022年)6月28日(火)14:30~ 開催です。

2022.05.22 JVCKWシニアクラブ事務局長 田代 周

